



友達になろう

BE A FRIEND

1994—95年度国際ロータリーのテーマ

- 国際ロータリー会長 ビル・ハントレー ● 第2560地区ガバナー 大島 精次
- 会長——高橋 一夫 ● 副会長——石橋 育於
- 幹事——五十嵐晋三 ● 副幹事——松谷 昊吉
- SAA——平原 信行 ● 副SAA——清水 良一 ● 例会日——毎週水曜日 12:30～
- 例会場——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 34-3311
- 事務局——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 35-3477
- FAX 32-7095

出席者会員数 会員 79名中 58名

先々週出席率 93.24% (前年同期 89.47%)

ヴィジター 三条南より 三条南より 若林幸哉さん
三条北より 高橋彰雄さん

先週のメイクアップ

- 12/1 ガバナー会へ 藤田説量さん
- 12/2 吉田へ 渡辺喜彦さん
- 12/8 加茂へ 野村竹三郎さん、加藤紋次郎さん
- 12/9 新潟東へ 捧 賢一さん
- 12/12 三条南へ 斎藤弘文さん、石橋育於さん、林 光輝さん、吉井俊介さん、
五十嵐力さん、五十嵐晋三さん、山田富義さん、渋谷正一さん
- 12/13 三条北へ 荻野保和さん、近藤雄介さん

会長挨拶 高橋(一)会長

皆さんこんにちは。

今日は南クラブから若林さん、北クラブから高橋さんようこそいらっしゃいました。ロータリーの例会をねらったがごとく雪が降りだしました。ですから出席率が悪いのではないかと心配して来たのですが、このように大勢の方々が出席され、皆様方の日頃の健康管理がゆきとどいているのだなあと感じました。

私は今年最後の海外旅行にいき昨日かえって来ました。ここ数年ぶりアメリカの活発なクリスマス商戦にアメリカの景気の良さを感じて来ました。来年あたり日本にも普及してくるとよいのですが。

幹事報告 五十嵐(晋)幹事

◎大島ガバナー事務所より 災害義損金についてお願いがとどいております。

- 1. 北海道東方沖地震被災に対する義損金
 - 2. フィリピン・ピナツボ火山の土石流災害
- } 会員1人 500円

◎三条市特殊教育研究協議会より

「クリスマスの集い」ご出席お礼状がとどいております。

ニコニコBOX ¥20,000 12月14日分

- 高橋(一)さん 久しぶりにアメリカの好景気を肌で感じてきました。丸惣さんラーメン屋チェーンおめでとう。
- 藤田(説)さん 久しぶりにホームクラブに出席します。
- 平原(信)さん ひさしぶりに小林敬典会員の顔を見て、荻野の会員の卓話ごくろうさまです。
- 小林(九)さん 明後16日で満70才となります。昔風に言えば古希です。変なのが生まれて来て済みませんがもう暫く生きたいと思っておりますのでよろしく。
- 榎本さん 荻野さん、卓話御苦労様です。
- 小林(敬)さん 大変ご迷惑をお掛けしました。
- 高橋(政)さん 中村さん、先週は卓話を替っていただきありがとうございました。プログラム委員会の皆様には御迷惑をおかけし申し訳ございませんでした。
- 渡辺(喜)さん 今度ラーメン店を開くことになりました。「どさん子」のチェーン店で西本成寺の旧本社の1階です。明日オープンですよろしく御愛顧下さい。
- 荻野さん 2回目の卓話です。つたない話で皆様のお耳を汚します。

丸山さん 渡辺喜彦さん、どさん子本成寺店開店おめでとうございます。試食は大変おいしくいただきました。

斎藤(隆)さん 荻野さん卓話ご苦労様です。

菊池さん 雪がふってきました。冬本番。この冬中に、充分インプットできることを願って。

西山さん 税務署の調査が2日間で終わりました。ヤレヤレ。

【川柳】 新た^{しん}みでも 打ちようで 出るほこり

高森さん 今年1年間御世話になりました。

.....ロータリー財団への寄付金 ¥20,000.....

小林(敬)さん

榎本さん

卓話 海外旅行自由化30周年を迎えた旅行業界 荻野保和会員

「急激な円高と貿易黒字による旅行業界の動き」というテーマをプログラム委員会からいただきましたが、私共は一販売支店にすぎず、また、私自身も浅学非才にして大所高所から物を言える立場にございませんので、結果と現象面をとらえてお話させていただきます。

本年は、1964年に海外渡航が自由化されて丁度30年という節目の年に当たりますので、本日は、この30年の回顧、本年の話題を含めた旅行業界の現状、21世紀に向けてのささやかな私見という構成でお話したいと思います。

では、お手許にございます出国者数に関する資料をご覧ください。渡航自由化元年の1964年から昨年1993年までの30年間の出国者数の推移、成長率と共に各年の主な出来事が記されています。まず特徴的なことは、渡航者が急激に伸びた時機が3つあることです。64年から順調に伸び続け第1次オイルショックの73年までを旅行業界では第1次海外旅行ブームといいます。しかし、この時機の海外旅行は、庶民にとっては高嶺の花。例えば、現在も続いているパッケージ旅行が出揃った70年頃、ハワイ7日間は20万円台の後半でした。サラリーマンの平均月収は、たぶん5万円位だったと思いますので、ちょっと海外へ、という訳にはいかなかったでしょう。この価格は、その後一進一退をくり返し、91年下期以降の相次ぐ値下げで現在はもっと安くなっているのは皆様ご存知の通りです。



次に、第1次オイルショックと第2次オイルショックの間の76年から79年を第2次海外旅行ブームといいます。この期間に現在の成田空港が開港し、座席の供給が飛躍的に伸びました。ハネムーンや退職記念、企業の招待旅行などで庶民も少しずつ海外に行けるようになった時機です。そして、運輸省の「テン・ミリオン計画」の発表から湾岸戦争、バブル崩壊までの87年～90年は第3次海外旅行ブームと呼ばれ、海外旅行が庶民のものとなりました。

急成長の山と共に、もう1つ表から読みとれる大きな特徴に、女性の割合の急激な伸びがあります。恐らく今世紀中に50%を越えるものと思います。それに伴い、表にはありませんが、渡航目的のうち観光を目的とする割合が74年以降、80%以上を常にキープしています。最後に、表の最下段の空白に「94年、1,300万人、9%」と書き加えていただいても宜しいかと思えます。10月までの実数と11月、12月の予約状況から間違いなく今年は、1,300万人を越えるそうです。94年からが第4次海外旅行ブームとなるよう、業界周辺では大いに期待しているところです。

1,300万人というのは、数値的には渡航率が人口の10%を越えたという意味があります。何度も渡航するリピーターの方が沢山いますので、10人に1人とは言えませんがそれに近くなったといえます。他の国の渡航率は、私の記憶では、スイスが96%で最も高く、欧米の先進諸国は大体20%台か30%台、日本と同じ島国のイギリスは50%弱だったと思います。

今年、景気回復がはっきりしない中渡航者数が大きく伸びた背景には、円高による国内旅行に比べての割安感、今もなお海外旅行の主流を占める団体旅行を含むパッケージ旅行代金の値下げ、関西空港開港による座席供給数の増加、昨年からの社員旅行に対する非課税枠が4泊5日に拡大されたことの定着、新運賃制度の導入、局地的な紛争を除くと大きな戦争がなく、日本人の一般的な目的地は平和であったことなどがあげられます。

ここで、年末でもありますので、今年の旅行業界を振り返り私の独断と偏見で選んだ7つのキーワードを発表したいと思います。

1. 関西空港

着陸料をはじめ各種使用料の値段の高さなどで物議をかまして9月にスタート、利用状況は順調。ハブ(車軸)を目指す。

2. IIT運賃

GIT運賃(団体包括旅行)の航空券が格安航空券として、個人にバラ売りされている実態をふまえ、個人の包括旅行に適用される国際空港運賃が実勢価格に近づけて4月に発足。

3. エコ・ツーリズム

自然体系や動植物の生態、又は地域独自の文化の視察や体験を目的とした旅行形態。料金の一部を自然や文化財の保護団体に寄付するツアーや熱帯林など自然の現状を視察するツアーがある。

4. コンビニ販売

コンビニエンスストア等で消費者自らがコンピューター端末を利用して旅行契約をするというシステム。利便の増進にはなるものの消費者保護という面からは多くの問題点があり、旅行業法の改正も含めて検討が開始された。

5. 泊(寝)食分離

国内旅行は、猛暑や水不足も災いして概して不振。特に割高感のある沖縄や四国が深刻。割安感と需要の喚起のため、伝統的な1泊2食付から「素泊り」「1泊朝食」「昼食付」など旅館業界と旅行業界で生み出した宿泊プラン。

6. 舞台訪問ツアー

今年も数多く生まれたヒット商品の1つ。映画や小説の舞台を訪ねるツアーで前から根強い人気があったが、「大草原の小さな家」や「ツインピークス」に始まり、「南仏プロヴァンスの12ヶ月」「マディソン郡の橋」で爆発的売れ行きとなった。

7. 航空機事故

輸送量の飛躍的拡大に伴い、今年も多数の事故があった。特に、4月26日の中華航空機の事故は、わが国の航空事故史上、2番目の大惨事。県内公立高校の修学旅行の行先に海外旅行も認可となったが、水をさされた。

さて、海外渡航者の飛躍的な伸びや今年の業界の特色をお話してまいりましたが、それでは旅行業の業績が良かったかということ、NOです。元来、薄利多売といわれる業界ですが、収益性はさらに悪化し、「利益なき繁栄」といわれるのが実体です。

	上位35社の 総取扱高	申告所得4,000万 以上の公示法人数
1991年	5,253兆円	175社
1992年	5,176兆円	150社
1993年	4,986兆円	123社

※全国の旅行業者数は、12,622社(94年4月1日現在)

また、半期毎にみると91年の下期以降連続7期、海外旅行の主要パッケージ代金は値下げになっていますが、94年下期についていえば、大体、前年比14%位の値下げです。その中味は、円高見合い分が約3%、航空運賃の値下げが約5%、残りの6%は経費削減や利幅の圧縮など収益性の低下に直結しています。過当競争によるダンピング合戦にリストラが追いつかないというのが本当のところ。確かに価格破壊がトレンドであり、消費者ニーズに迎合しているという一面もありますが、結果的に粗悪品を提供しクレームの山を築くようでは元も子もありません。

話は変わりますが、そもそも旅行とはどういう意味なのでしょう。広辞林によれば「歩いたり乗り物を利用したりして他の土地へ行くこと」となっています。とすれば、戦場へ

向かう兵士、主君の仇討ちの準備に江戸に向かう浪士、遊牧民、果ては獲物を求めて移動する古代人、彼らは旅行者といえるでしょうか？通勤通学客は？

私は、「観光」こそ旅行の最大の目的だと思います。観光という言葉は、1855年にオランダ国王から幕府に贈られた蒸気船スモビン号に命名されて一般的になったようですが、出典は中国の古典「四書五経」の一つ「易経」の中の「国の光を観る」に由来しており、長崎沖に停泊中の「観光丸」には、維新前夜の志ある諸藩の若き武士たちが多数集まり、西洋の文明・文化を吸収したといえます。広辞林でも観光とは「他国の文物・制度などを視察すること」とあります。こうした未知への憧れ、知的欲求に基く日常空間からの離脱こそ「旅」と言えるのではないのでしょうか。最近では、観光旅行という言葉が、単なる物見遊山という様にあまり良くない意味で使われているようで残念です。

昨今の旅行業界は、売らんが為の話作りやダンピング競争で方向を見失いがちですが、ここまで旅行が一般化される過程では、文化の創造という役割の一端を担ってきたと自負しても宜しいのではないかと思います。そういえば、この夏価格競争を尻目に飛鳥クルーズが96年3月出航に向けて発売になりました。世界一周96日間で、ロイヤルスイート利用の価格は、1人1,700万円と旅行商品史上、最も高額であるにもかかわらず、超人気ですぐに満室となったようです。このような「夢」、先程エコーツーリズムで少し触れました「観光資源保護」、そして何よりも「平和」これらをコンセプトした基本に戻っての旅の企画、情報提供をしていくことが私共に課せられた義務であり、また生き延びる道だと思います。

シリーズ思い出の会長・幹事時代 そのII

ロータリーと運命

1983~84年度会長 中 條 耕 二

我が親友梨本清一君と会長、幹事のコンビを組んだのは一九八三年から八四年にかけて今から丁度十年前になる。地区協議会を三条クラブがホストとなり、ホテル小柳で開催する時に会長となったのも巡り合わせか、例会場を今のしんきん中央支店から新装なる本店に移す歴史的な時に遭遇したり、ライオンズの見附市にRCの誕生の為、梨本君と度々行ったりと毎日がロータリーでいう奉仕の連続であった。私も四十八歳と若く、光栄にも金子初代会長に例会場を新本店に移すように指示されたことが昨日の事の様に思い出される。例会場を移してやれやれと新装の例会場での写真である。梨本君はこの後地区のロータリーの為大活躍する運命になるのであるが、彼の能力からして当然のことであった。

もう一枚は見附RC設立時、上木前会長が得意の尺八で伴奏され、二人で黒田節を唄わせて頂いた時の写真である。

三条RCから初めて藤田ガバナーの誕生となり、日戸会長時代三条RCの拡大委員長であった私が北クラブを創るよう仰せつかり歴代会長、全会員のお力添えと梨本君の献身的奉仕により、北クラブの誕生となるのである。三条クラブ三十周年の年私は三条クラブと北クラブの二足の草鞋を履いていたが、到頭北クラブへ移籍となり、又梨本君とコンビで北クラブの初代会長、幹事を引き受けることとなったのである。運命のいたずらであろうか。

その前に忘れられない事がある。三条クラブの当時会長、幹事であった内山さん、杉野さん、二月に杉野さん宅で早めの引き継ぎで一杯頂いたが、その後何日も過たない日に滝澤市長急逝となり、不肖私が五ヶ月間会長代行を努めたことも三条クラブの歴史の中で唯一の出来事であった様だ。私の三条クラブでの思い出はつきないが、昭和三十九年に野水文治さんのご紹介で会員にさせて頂き、精一杯三条クラブの為、馬場会長の十周年記念も立ち会い、二十周年、三十周年と二十二年間奉仕の理想を目指し、働かせて頂き、思い残すこともなく、感謝の気持ちで一杯の昨今である。しかし同じ市内のロータリーを移籍するとは梨本君も私も全然考えていなかったことであり、運命とはと改めて問い直してみるのだが、先が解かれれば苦勞しない。



すばらしきかな、幹事

1983~84幹事 梨 本 清 一

ロータリー歴わずか六年程の私に、大三条RCの幹事役がまわって来ようとは、夢にも思っていなかったが、中條会長ノミニーが決定するや、それはしごく当然の運命の様に、青二才幹事が誕生してしまった。

中條耕二君との関係は、JCに誘ってくれたのも彼、ロータリーを勤めてくれたのも彼、という恩人ではあるが、青春時代の軌道を、私は常に彼の後にくっつきながら、せっせ、せっせと走り続けて来た間柄であった。

そして、一緒に汗し、一緒に笑い合ってきた。そして、私は彼から沢山のことを教わった。

1983、84年が二人のコンビの本番年度であったが、既にその前年度から私たちの見附通いが始まっていた。

二人の共通の人脈を頼って、見附の若手集団に火をつけてもらった。ライオンズの幹事さん、ライオン一色の市商工会会長さんに根回しするあたりはさすが中條君である。

そして本番年度、鈴木宗資さんを特別代表に迎え、渋谷健一委員長を筆頭に、金子左武郎さん、岩井さん、新田さん、日戸さん、杉野さん、古沢さんという最強メンバーによる特別拡大委員会を組織し、三条RC全会員を挙げて見附RC誕生に向かって邁進した。

当時ガバナー広沢純孝さんが、三条RC公式訪問の際「ロータリーに見物席はない。三条RC会員はひと言で言って、皆な優秀である。」という言葉を残された。

その後、広沢さんよりお手紙を頂いたが、身に余るお言葉なので今でも大事にしまっている。「折にふれいろいろな機会に中條、梨本のコンビを人に話し自慢しています。お二人に知り合えたことは、公式訪問の大きな収穫でした……言々」勿論、お世辞とは充分承知しながらも、尊敬する広沢さんからの私ども二人への最高のプレゼントだと思っている。どれもこれも、私ども二人を一生懸命支えて頂いた会員皆様方のお陰なのだ。

この年のターゲットは「みんなにロータリーを、みんなに奉仕を」であった。広沢さんはこれを「ロータリーとは分かち合うこと、分かち合うことが奉仕だ」と解説された。

三条RCは、この年見附の拡大と共に、クラブ内増強に力を入れ、なんと十名の新会員を迎え入れたのである。

この三条RCが、やがて藤田説量ガバナーの誕生をみ、二五六地区を預かることによって生ずる様々な事業を、見物人の居ないロータリークラブの名の通り、全員一丸となって見事やってのけたのである。

ところが、まさかである。中條、梨本コンビに再度の出番があって、「見附の夢よ、もう一度」を再現し、その結果が、二人ともども三条RCを去ることになろうとは、夢にも考えてもみなかった。

ともあれ、私のロータリー人生は、あの年、先輩方に「幹事をやれ！」と申し渡された瞬間に決まっていたのかもしれない。

更に中條会長には「お前の好きな様にやってみろ」とロータリーの財布ごと預けられて、初めてロータリーの勉強を一からやり出す始末。信頼され、鍛えられた（期待ではない）幸せな幹事であった。

当時の私のノート最初のページに、私はこんなことを書いていた。

<心得>

- 一、ガバナー事務所との連絡を密にすること
- 二、責任のすべては幹事にある
- 三、健康であること
- 四、几帳面であること

五、謙虚であること

六、そして、感謝

梨本幹事「六つのテスト」のつもりか。

楽しい思い出は尽きません。

三条RC諸先輩の皆様、感謝の気持ちでいっぱいです。

四十路の秋

第三十三代会長 杉野 奎 司

昭和四十五年、第十四代田中佐造会長より「是非あなたから当クラブに入会して下さい」と最初に慇懃にお話を受けました。格別その知識のない私は、全くその意志はなかったのですが、時に田中会長は七十五才とおききしておりました。

人格高潔、富士の高嶺を仰ぐ思いがして、次第に、お断りをする術を忘れてしまいました。早いもので、あれから二十四年の歳月が流れ、まさに光陰矢の如しであります。始めて例会に出て、お会いする方々、皆、それぞれ各界の代表的な人達ばかりであります。そして何人かの方から「入会していただき、ありがとうございました」と私に声をかけて頂いた、その時の感激が今も頭の芯から離れません。

今になって、田中佐造大人は、私にとって終生忘れ難い大恩人だと思っております。

その頃、我が国は戦後の暗い時代から漸く沖縄返還、大阪万博と正に、近代日本の黎明期を迎えた年であり、反面、よど号事件などもありました。

そして、私には半年の間に両親と決別の不惑の四十でもありました。

昭和五十七年、第二十七代会長に内山裕一現市長が就任され、私は幹事という大役を仰せつかりました。内山会長は、市の教育委員長の職責にもあり、前滝沢市長が急逝されたため後継者として、立候補され見事、市長に就任されました。そのため会長不在の時もあり、天涯孤独の思いをしたことがあります。が、「徳は孤ならず」で多くの良き隣人によって救われました。

あれから十二年になろうとしています。過日内山市長は、三期、全うを前にして引退を表明され、私も往時を想い万感胸に迫るものがありました。

三条ロータリークラブが生んだ名市長に心から賛辞を贈りたいと思います。素人、市長と揶揄されて「忍」の一字に耐え本市の二十一世紀に向けた大きな将来の展望のもとに、



基盤整備の五大事業を次々と完成された抜群の手腕は、永遠に不滅であり高く評価されるものと確信いたしております。出馬の際その片棒を担いだ一人として、心から敬意を表し感謝申し上げます。

天皇陛下の崩御により年号が変わりましたが昭和六十三年から平成元年と、此の年度は、「ロータリーに活力、あなたの活力」がテーマでありました。活力のない私の出番となりましたが、幸い「カミソリ」幹事と言われた、頭脳明晰の長谷川有美社長を助っ人に大過なく通過することができました。

“激動の昭和から平和の平成”と言われたが景気の急上昇と、金余りに対する無政策で、バブルの崩壊となって今日にいたっております。丁度。隣国のソウルに、オリンピックが開催された年でもありました。三条市では名誉市民の岩田正巳画伯の市葬が厳かに執り行なわれました。

三条の三クラブと燕クラブで、新幹線の燕・三条駅に外国からの来訪者歓迎のために、世界二十五か国の特製の国旗を寄贈しました。

また、歴史民族産業資料館の新設記念として看板を三基と、幕末、村上藩の内藤藩主が所司代に重用された三条の陣屋での祝宴図のパネルと、館内の放送設備一式を寄贈しました。

一方国際大会にクラブ参加したのも、初めてでありました。ソウルへ平成元年の五月十九日から二十二日まで会員の皆さんと、楽しい外国旅行をいたしました。

反面、痛ましい、“北京の天安門事件”が起きたのも此の年でありました。

「ロータリーに活力、あなたに活力」と、それに相応しい年度だったと回顧いたしております。

ともあれ、昭和と平成の二つ世代に会長職を経験させていただきましたが、その恵まれた幸運に無上の喜びを感じました。思い掛け無い、今年度の皆さんのお陰で此の回想の機会を得た事に心から謝意を表わして筆をおきます。

三条RC 12月21日例会 夫人同伴忘年会 PM6:30~ 於 松木屋

12月28日例会 卓話 清水良一会員

1月4日例会 クラブアッセンブリー

三条南RC 12月26日例会 卓話 三条高等学校 校長 吉岡又司殿

1月9日例会 新春例会

1月23日例会 田中久作会員

三条北RC 12月27日例会 卓話 吉川吉彦会員

1月10日例会 新春例会

1月17日例会 山上茂夫会員
